

今日は「平和力喪失の時代に平和をつくること・3」ということで、2度あることは何とやら、ということですね、これまでの内容を踏まえて更に理解を深めていくものになります。

市で平和都市宣言を作るときに大事なのは、もちろん委員の方々に入っていただくのも大事ですよ。議論するのも大事です。ですけど、大前提として、市民の皆さんに声を上げていただくというのは本当に必要なんですね。普通に住んでいる人たちの普通感覚でしゃべっていただいて、そこで大事だと思われる言葉を紡いで、これがようやく、ここの町に住んでいる人が作ったここの町のための平和宣言ということになるだろうと思います。ですから、仮に私が専門家だからといって宣言を全部作ってしまうということもおそらくできます。過去にはそういう自治体もあったかもしれません。ですけども、それとある意味では逆を行く形で作っていかうかなと思いますし、ボトムアップなんていう言葉をすることがありますけれども、本当に町に根づいて町に根付くと自分のものだという感じがあります。町に根づいた宣言にしていだきたいと思いますし、そうなればいいなと思います。そのためには、ここに普段から暮らしている人の生の声というのを集めることがまず大事だろうと思います。そういうことで、今日は前半私が話をしますけれども、後半はワークシートを使って、ワークをしたいというふうに思っております。

それですね、先ほど紹介がありましたけれども富山大学時代に授業を受けてくださっている学生を中心に、こういった場所で皆さんと一緒にお話をさせていただく学生メンバーを募りました。勝手に私がチーム飛騨市と名前をつけまして、富山大学にいるときから、チーム飛騨市というものを作るので面白そうだと思う人はぜひ手を挙げてくださっていうことを何ヶ月か宣伝をしました。宣伝をした結果、6人の学生が手を挙げてくれまして、そのうち今日は都合がつく2人が来てくれました。飛騨市デビューということで、単に今日ここに出るだけではなく、ある意味メインを明日にしています。この2人は飛騨市に来るのが初めてなので、とにかく町を巡る、町を巡って飛騨ではどういうところでどんな人たちがどういうふうにごろごしているのかというところを、私も含めて知りたいと思って来ています。

先ほど自己紹介があった通り、この2名にはグループワークのときに入っていて、いろいろ議論をしたり、或いは、これどうですかみたいな形で意見を引き出してもらったりとか、そういう形でやっていきたいと思っております。緊張しておりますけれども、先輩方いろいろ教えていただければと思います。

ということですね、今日はそんなに大きなテーマでというようなことはあんまり考えておりません。先ほどから申し上げておりますけれども、今日の資料の後ろ部分のワークにじっくり取り組んでいきます。今回の委員会と次回の委員会をまたぐ形で、単純に市民の人

私たちは何が大事だと思っているのかを、私たちの目で、或いは私たちの感覚でピックアップするという作業をやります。

リストをみていただくと分かると思いますが、例えば戦争とか平和とか、そういう単語についてはよく出てきます。或いは貧困とかジェンダーとかっていうのが出てくると思います。ですけど、あまり拾われない単語が出てくるんじゃないかと期待しています。実はその拾われない単語の中に実は本当の気持ちが入っていたりする。その可能性もあるんだと思ひまして、現在中間的に結果が出ているこの250人分を、4つのグループに分けまして、ああでもないこうでもないという形でお話をしていただきながら、これは大事じゃないですかね、とか、これは違うんじゃないですかねみたいな形でですね、ピックアップしていただくという作業を今回と次回でやります。そして、夏から秋にかけて今回の結果をもとにしてテキスト作りをしていこうかなと思っています。そうすると、市民が出した言葉と、市民の出した思いというのを、皆さん方を中心にピックアップをして、そこで言葉を紡いで分離するという作業ができ上がってくるかなと思います。これで、秋ぐらいにある程度テキストを整えて12月にご披露という流れで考えています。

ただ、もちろん皆様方のアイディアというのがあると思います。ちょっと早めたほうがいいんじゃないとか等あるかと思っていますので、これは皆さんの委員会、私たちの委員会であったりしますので、ご意見や修正というのは、いつでもお挙げいただければというふうに思っております。とりあえず何をやったらいいかわからないということがないように、今、とりあえずというんでしょうかね。こんな形でいたしますというメニューをご紹介したわけです。

では、今日お配りしましたA4の資料の話をやっていきたいと思っています。以前お話したことの繰り返しにもなると思うんですけど、大事なことは繰り返して聞いておく或いはしゃべっておくほうがより大事なかなと思いますので、重複を恐れずにしゃべっていききたいと思います。

本日のねらいなんですけれども、今回で去年11月の準備委員会を含めて3回目ということになりました。平和について考えることに皆さん少しずつ馴染んできたかなというふうに思っています。少しずつ馴染んできた今、私たちが今日考えてみたいのは、あなたは、私は、という一人称ではなくて、二人称、或いは他人称です。みんなは、ということです。私の平和というところから、私たちの平和というところへと広げていこうと思います。これが2ページ目の上から2つ目の、「みんなは平和をどう考えているの？」というところになります。今回ピックアップ作業をしますが、ピックアップ後も含めてどうやって決めたり進めたりするのか、この部分についても少しお話をしていこうと思います。

3ページ目ですね、3つの問い・三度と書きました。平和とは何か、なぜ今なのか、そして叫べばよいのか。という3つです。これはもう以前からずっと出しているものでして、こ

れは大事だと思いますので出しています。これは折々にこう、自問していただければいいと思います。今ここで何かを出すというのではなくて、立ちどまって振り返って考えるためのものと考えていただければと思います。

これを踏まえて、前回、こちらの方で私お話をさせていただいたのが4ページ、「つくる」「つかむ」「つかう」の3つの行動でやりましょうという話をいたしました。平和都市宣言策定に向けた委員会なので、とりあえず作るというところを一最初にやりましたが、ただ作るためにもまず準備があります。なので、前は「つかむ」ことにより準備をしていただきました。今どんな時代でしょうか。私たちの住んでいるところはどうかとを考えていただいた。この結果についてはまた後で、ページめくっていただいて、振り返りをしたいと思います。

まず「つかむ」をやったので、これから「つくる」に入ります。そしてその「つくる」のやり方として、市民の皆さんから寄せていただいた声から、大事だと思う部分をピックアップして、まさに紡いでいく流れでやっていきたいと思います。市民からの意見募集は3月からもうずっと今やってくださっていて、6月7日が期限ということですのであと3週間ぐらいですかね。できるだけ多くの人たち、あと、できるだけ多様な世代というふうに言ってもいいかもしれません。今250人という多くの人から意見をいただいている私もうすごく嬉しいです。ただ、中高生に声をかけていただいた結果、10代がすごく多くなったんですね。なので、逆に大人頑張れっていうような気にはなっております。次回の委員会のときには、もう少しその20代から上の、皆様方の意見というのでも聞けるのではないかと思いますので、次回は次回でそこで出揃った問題で、同じ作業をします。そうすると幅広い世代で出てきた言葉をピックアップして、大事だなと思う言葉が固まってくるはずであります。そこでみんなが考えている意見・平和ってどういうことなのかということ、自分の言葉にするという作業を今回と次回でやっていこうかなと思います。

5ページ目を見てください。過去2回の委員会では、私の平和ということを考えてきました。今回から私たちの平和というところへとステップを一段、上げていきたいと思います。ただ、問題はピックアップと言っているんですけども、市民からあがってきた意見をどういうふうにして集めて、決めていくかということです。それで、この決めるというのは、決めるというふうに言うと言葉はすっと通るんですけども、なかなか横暴なところがあります。それはなぜかといいますと、自分の目になかったものをピックアップします。目になかったものはピックアップしませんということになるからです。これは例えばみんなで作るということになると、典型的な例は多数決ということになります。多数決の場合は、多数の人がそうだと思ったので通るということになります。そりゃそうなんです。なんですけれども、多数の人がそうだと思っていて、決まったところの裏側には、決まらなかったものであるとか、そこで退けられたものとか、つまり小さな声です。小さな声の存在というのが必ずあるはずなんです。なので、ここで1つちょっと仕組みを入れようと考えました。

5 ページ目の3つ目の四角のところに、「多く寄せられる考えとそうでない考え」というものを入れました。そうでない考えに、今一度寄り添うという作業も入れたいと思います。面倒です。面倒ですけども、それを入れることで多数の人が思っている考え、同時に、皆さんの感覚で、多数には入ってないんだけど、ここはちょっとやっぱり自分の心の琴線に引っかかるというものがあつたら、それを出していただきたいというふうに思っております。そうすることで、私も結構欲張りなんですけども、多くの人たちが考えているものと、多くとは言えないんだけど自分は大事だと思うものが浮き彫りになってきます。できれば、それら両方を組み合わせた形にできればなというふうに思っています。

なぜこういうふうな形のプロセスをご提案したかという、民主主義ってこういうものだからです。例えば私、今日は富山大学で授業をしますということで、1時間目からずっと8時45分からずっと授業してきました。授業って、例えば大学でもそうですし、東北学院でもそうなんですけど政治学というものを教えています。政治学の基本のキということになると色々あるんですが、やっぱり外せないのが民主主義という考え方になってきます。民主主義って何でしょうねという話を今するともちろん難しいです。なので今日はしませんけども、民主主義をぐっと絞っていくとですね、最後はやっぱり「決める」というところに行きつきます。ただ、その決め方というところが、他のものと違います。

1つ目はみんなのことを決める。2つ目はみんなで決めるということです。みんなのことを1人で決めたら独裁です。或いは1人のことをみんなで決めるということになると、これはなかなかリソースが足りません。ということで、みんなのことはみんなで決めて、初めてよく動きます。ですから、民主主義というのをいろんな人が定義をされてますけれども、私なりに勉強してきて、授業で学生さんたち、社会人の方とかもおられますので、お話をさせていただいて、わかる言葉で通すということになると「みんなのことをみんなで決める」ということにつきます。また、みんなのことをみんなで決めるというのは、それこそ小学校のときからやってます。委員会活動をやって、児童会生徒会をやって、或いは町内会でもいいです。PTAでもいいです。ただ問題は何かというとそこでの決め方でして、決め方で大体決め方は多数決になると思うんですね。全員一致が一番いいかもしれませんが、全員一致というのはなかなか望めません。それは私たち一人一人が違う考えを持ってるからです。そういった違う考えの方がいるということを前提にすると、ある程度のマジョリティの人たちが持っているもので、ベストじゃないけど、ベターだということもあると思います。ただ、これが先ほどの話に実は繋がります。

ベターではあるんだけど、例えば100人いるところで95人が賛成した話があるとしたら、95人が賛成したということで、その集団やコミュニティの中では十分多数派ということになりますが、問題はそこで置いてきぼりにされた5人です。そこで置いてきぼりにされた5人はなぜ置いてきぼりにされたかという、「多数決で少なかったから」。それ以上の答えが出てこないんです。問題はその5人に自分が回ったときにそれで納得できるかという話なんです。

自分が多数派にいたら、もう仕方ないよ、物事は決めるもんだと社会はそういうものだという話をすればいいんですけども、もし仮に自分が当事者（少数派）になった場合には、はいそうですか、ではなかなか納得ができないかもしれません。もちろん、それに対しての入れ込み方とか、いろいろあると思います。わかった、じゃあ折れようさ、と言うこともあるかもしれません。あるかもしれませんけれども、民主主義になって大事なのは何かというと、多数決で決めるということだけではなく、みんなのことをみんなで決めるからこそ、そこからこぼれ落ちたものを1度振り返るということが大事になってきます。実は今、この部分まで民主主義ができるかどうかというのがある意味すごく試されています。これは日本だけではないです。いろんな国でやっぱり試されてます。だから、マイノリティっていう話が出てきます。マイノリティという言葉はあまり乱用したくはないです。少数者という意味だったりしますが、ただ、少数者には少数になるだけの理由が、或いはその思いがあって気持ちがあります。少数派だからということで洗い流すということも、一度立ち止まれるのであれば、立ちどまったほうがいいのかなと考えています。

そういうことで「つくる」では、多数の声を聞きながら、拾われなかったはずの声というのを、拾ってみようという作業もちょっと入れてみたいと思います。

では、ワークに入る前に、過去2回のワークでどういうことをしたか振り返ってみます。11月の準備委員会の時には、「あなたにとって大事なものは何ですか」という問いと、「あなたの大事なものを脅かすものは何ですか」という問いをしました。いずれも一人称での問いです。それを委員の皆様方に、まず個人で出していただいて、それをグループで集めていただいて、それを全員で集まりました。そしてそれを簡単に仕分けするとこんな形になります。

（7ページ）

Q1「あなたにとって大事なものは何ですか」に関しては、衣食住という答えが一番多かったです。実は今回の市民への意見募集でも「特に大事なものは何ですか」というところで選択肢を選んでいただいたのですが、そこで一番多かったのが衣食住に関することでした。この大事なものが委員と市民で重なったという感覚はすごく大事だなというふうに思いました。あともう1つですね、衣食住というのは比較的わかりやすいんですけど、2つ目に大事にしたいなと委員の皆さんが思っていたのが、この周りとの関わりです。ただ、この周りとの関わりというのは、口で言うのは簡単なんですけども、具体的にどういう形ですかって言われるとなかなか難しいです。

それでもう一つの問い、Q2「あなたの大事なものを脅かすものは何ですか」の答えとして出てきたのが、災害・格差・貧困・拘束・排除です。ここのポイントは「戦争」が全く出てこなかったところです。これは長い間、日本が戦争に関与していないからという大前提があるだろうと推察されますが、例えばですね、私も2代さかのぼったら、母方の祖父は沖縄に行って死んでおりますので、それこそ何代かさかのぼったら、場合によってはかなりの方

が遺族であるという考え方もできます。ですので、たまたま今こういうふうな社会的情勢だから、一番早く頭に思い浮かんだものが戦争以外のことだった、ということかもしれません。この問いをしたのが11月なんですけど、「災害」が大事なものを脅かすものとして出てきました。図らずも1月に大きな地震が起きました。あと、拘束・排除というところが出てきました。これも実は少なからず答えが今回の市民からの意見募集でも出てきました。以上が11月の準備委員会の振り返りです。

では次、8ページです。2月の第1回開催時のワークでは、3つの問いを出させていただきました。先ほども申し上げましたが、第1回では「つかむ」ということをテーマにしました。つかむというのをテーマにしていたので、まずQ1「今はどんな時代だと思いますか？」と伺って、今の時代を皆様方なりに掴んでいただくということをしました。その結果です。

分類すると、向かって左側のどちらかというポジティブな印象を持ったもの。向かって右側、どちらかというネガティブな印象を持ったものという形で二分されました。ポジティブだと考えられた方は、複数回答で便利・進んでいる、と回答しています。技術など、いろいろな恩恵に預かったという意味だと思います。

ですが、一方で、先が見えなさというところもかなり意見が重なりました。それが例えば、これまでにないだとか、予測不能であるとか、先が見えないとか、そういうふうな答えで、言葉で出していただきました。そして、その中で自分たちは苦しんでいるという言葉まで書いてくださっていました。先が見えない中で苦しいと、おそらくコロナあたりを経験して、言葉になって出てきたものだと思います。

そして、Q1を踏まえて、Q2では、「私たちの今の時代は何が一番問題だと思いますか？」という質問をしました。ここで回答として出てきたものは、格差社会、人口減少、アフターコロナという、どちらかという、社会経済的な側面というのがまず出てきました。やっぱり戦争や暴力とか犯罪とかテロとか、そういうふうなことってというのは出てこないんです。実はこれ、結構大事です。なぜ大事かというと、国の外交政治の人達っていうのは、そっちの話はあんまりしてないんですよ。ウクライナにしてもガザにしても、もちろん外交ですから仕方がないというところはあるとは思いますが、それに対して何かするということはほとんどない。世界では戦争が起きているけど、私たちの暮らしに近づけば近づくほどそういった色合いが薄くなって行って、遠い戦争よりも近くの格差とかコロナ禍とか経済とかにやっぱり目が向けられるのではないかと推察しています。あともう1つ、平たく申し上げると心の問題というふうに言ったらいいかもしれません。心の不安定、心の不安、安心できない、何か繋がりたい、そういう漠然とした不安も問題だとありました。ただ、漠然としたものだからほっといていいかっていうとなかなかそうはいきません。芥川龍之介は自殺をしましたが、でもなぜ自殺したかって漠然とした不安があったからです。なので、漠然としているからといって舐めてかかれるかといったらそういうわけではないんです。

ですから、漠然としたものっていうのが何なのか、心とか気分とかそういうものに、起因するものがあるんじゃないかというところですね、Q3「それを解決・克服するためにはどうしたらいいですか？」という3つ目の問いをしました。

それで、この3つ目の問いに対する皆さんの答えがある意味一番驚きました。なぜかといいますと、4グループになって意見を出していただいたんですけども、解決・克服するために社会的・制度的にこれを整えてくださいっていう話はほぼゼロだったからです。その代わり、多数の方の声として出てきたのが、ここに列挙してある相互理解、認め合い、人の繋がり、思いやりというものです。心・気持ちや人の繋がり、人間関係の話。これが今、この町で生きている人たちにとっての、おそらく一番切実な平和の問題だと思います。もちろん、いわゆる平和学とかでやるような、平和の問題とは距離があります。ですけども、遠いからといってそれが平和でないというのはなかなか言えません。もちろん心や気持ちの意見だけではなくて、安定成長という生活の基盤に係る部分の答えを出してくださる方もおられました。おられましたけれども、数としてやはり多かったのは、人の繋がりのお話ということになります。

ポイントは、それこそ多数派と少数の話というのをそれぞれ出しました。多数だからおそらくピックアップしていいかもしれませんが、多数の後ろに隠れている例えば安定成長というような意見、これを別のところでどう生かしていけばいいのか。というところまで、これは委員の皆さんもそうですけど本当は市民の皆さんにも考えていただきたいなと思っています。

これからワークをしますが、見ていただきたいのは、市民からの意見を一覧にしたA3の用紙です。計3枚ありますが、これを各グループで裏表1枚を見ていただきながら、いろいろ雑談或いは相談をして、これは大事ですよとか、大事だと思う言葉をピックアップしていただきたいと思います。

1つ目にピックアップしていただきたいのは、市民からの意見募集での問1「私たちにとって平和とは何か」に対して、市民の人が寄せていただいた答えの中で、これだなと思ったものです。ですから、例えば平和とは何ですかといったときによく出てくる「戦争がない」や「貧困がない」などもあるかと思いますが、リストを見てみると「幸せであること」「いじめがないこと」など、人それぞれあるはずです。グループで話し合って拾い上げてみてください。別に多数でなくても、自分がいいと思ったらピックアップしてグループで共有をしてください。これが1つ目です。

2つ目は、市民からの意見募集での問2「平和のために私たちは何をすべきか」の答えの中からいいと思ったものをピックアップする作業です。例えばこの中ですと…6番いいですね。勇気。アンパンマンみたいでいいですね。他にも例えば争わないとか、個人の尊重とかいろいろ出てくると思います。そういう部分を、みんなで話し合いをしながら拾い上げていただければと思います。

今話した2つがメインなのですが、これに加え先ほど挙げたマイノリティ・マジョリティの話も入れたいと思います。今の2つに取り組んでもらうと、必然的に拾われなかった意見が出てくると思います。例えば、場合によっては先ほどあげた「勇気」というのは拾われないかもしれません。平和には直ちに繋がらないからです。ですが、その意見を出してくれた方は、多分何か思うところがあって勇気って言葉を出したのかもしれないと思います。もし、自分の心に引っかかって、「いやこれは勇気だろ、勇気大事だろ」というふうに思った場合にはですね、これはちょっとありじゃないですかとグループ内で話し合っていたきたいと思います。言い方変えると言葉は悪いですけど敗者復活戦みたいなイメージで考えていただければと思います。この意見や考え方は、私の中では全く思ってもいなかったんですけど、声として確実にあって、多くはないけど大事かもしれないなと思ったら、その時にはグループで話をしますけれども、委員の皆さん、それぞれの本当に完成にお任せして、ピックアップしていただければと思います。それを後ほど出していたいただければと思います。

シート内には総意とありますが、今回は総意を出さないことにします。なぜならまだ市民からの平和の意見募集は続くからです。最終的に意見が集まってから総意ということで絞っていきます。

(ワークへ)



(ワーク終了後)

池田教授から宿題が出された。

【宿題】

①市民から集まってきた意見を眺めて、どう思ったか。

次回に向けて、どのタイミングでもいいんです。時間をたくさんかけなくてもいいです。ぼんやりとリストを眺めてきてください。いろんな言葉が入ってます。そのいろんな言葉に対して、皆さんがどう思われたかというところを、ちょっと考えていただきたいなというふうに思います。

なぜかという、意見を読むとですね、時々やる気があったのかないのかよくわからないんですけども、自分が持つ価値観とは相入れない答えがいます。例えば問1に対して「猫がかわいいこと」と書いている方がいらっしゃいます。猫はかわいいですけど、真面目なのかふざけているのかどうかわかりません。でも、この「猫がかわいいこと」は、もしかすると解釈のしかたによっては何かあるかもしれません。例えば、先ほど挙げた「勇気」というのも、これは言葉が足りないので、自分の経験や考える範囲からちょっとアクセスしにくいんですね。平和とは勇気である。うーん…わかったようなわからないような気がするな…というところになったりするんですけど、そういった部分に創造力を働かせていただきたいと思います。あと、明らかにこれはふざけてるんじゃないかと思われるような意見であっても、真意があるかもしれないし、ないかもしれません。目立った意見や尖った意見を探せというわけじゃありませんけれども、それでもやっぱりもうちょっと見ていただいて、例えばこれだけ戦争ってワードが出てくるんだね、とか、或いは幸せはこれだけ出てるんだねっていう話でもいいんです。もしくは、先ほど申し上げましたが自分の価値観と反対になるような意見っていうのも出てくるかもしれません。

例えば平和を実現するためにどんな取り組みが必要か、という問いに対して140番の方はもっと防衛を強化すべきだという意見を寄せています。これは多分意見が割れるんです。というふうに考えても、これを機に考えてこれが平和だと思ってる人もいるということですね。それでいろいろ考えた挙げ句に、いやわからないって思うことにはなると思うんですが、いやわからないってなった状態で来ていただきたいと思います。

今回はそこからちょっとずつ捏ねていきます。そうすると、より市民の声や地域の人達の声とか、意味とかというのをしっかり固めたりすることができるのかなと思います。これはそんなにたくさん時間かけていただく必要はありません、暇なときに見ていただければと思います。

②「妄想」してください

今日のスライドの最後をご覧ください。2つ目の宿題ですが、皆さんには妄想をしていたきたいと思います。どんな妄想かというと、前回このお話で、宣言は使ってなんぼですよという話をいたしました。ということで、まだ宣言の内容も何もできていない状況ではありますが、宣言が出来た後にどう使うかを妄想してみてください。今回妄想するにあたって、頭に入れておいていただきたいポイントが3つあります。

1つ目は制約を考えないということ。よくある話ですけども、考えたところで、でもお金がかかるやんな、と考えを制限しないでください。そういった話は一旦置いてください。それを考慮し始めると一気に妄想が狭くなります。狭くなりますので何の制約もなしで考えてください。

2つ目は、複数の人で行う催しを考えてください。思いやりなど、個人個人の日々の心がけの問題というところから飛翔したいと思います。なぜなら、心がけだったら誰でもできるんですが、心がけを街全体にすることで、文化としての平和が飛騨市に根付くかもしれません。例えば、私が富山大学にいたときからやりたいなと思っていてまだやれていないことが、フェアトレードについて喫茶店を使って授業をするということ。例えばスターバックスでコーヒーを飲みながら、一杯のコーヒーがなぜ300円で飲めるのか。その300円の裏には、何か不都合なものが隠れているかもしれないと講義する、といったことです。これはあくまで例です。

3つ目は、妄想を考えていただくにあたって、市役所をかかわらせないでください。なぜかといいますと、大体こういう催しって市役所さんが頑張ってくださいます。行政さんが頑張ってくださいます。ただ、行政さんが旗を振って行政さんしかついてこない、ということになると、市民から宣言が離れます。なので、市役所を入れない、行政を入れないっていうことを念頭においてください。どんな小さな催しでもいいです。ケーキを食べる集いでもいいんですよ。茶飲み話の1つとしてこういうことをやるとか、小さいことでも構わないです。ただ小さい取り組みでも、それがいろんなところで花が咲くということになると、この宣言により多分町の質が上がっていきます。質っていうことは失礼かもしれないんですけども、ただ、その豊かさの中にも、量ではかれるものと、質が深まっているもので、計れるものがあります。量という意味では、おそらくこの国は豊かになってきたと思います。ですけども、高まり・深まりという視点で考えるなら、もっと掘り下げていけるはず。言い方変えると熟すっていうことだと思います。この熟すっていうことは、旗を振る人だけでやっても熟さないんです。みんなですること、この宣言は単に市民の人たちの声をピックアップして作ったというのではなくて、それをみんなでもやってみたっていうところまでいきたいと思います。

そこまでやって10年ぐらい経ったら、おそらくかなり深い土壌ができ上がります。肥やしはとっても大事です。私たちがおそらく必要にしてるのはサプリメントではないと思い

ます。サプリメントは即効性がありますけど、すぐに土壌から抜けます。肥やしはすぐに結果出ませんけれども、多分10年またそれなりに豊かな土壌ができるはずですよ。おそらくそういうものがあつたら、うちの町にはこんなものがあるよ、華やかで煌びやかではないかもしれないけれども、こういうところで町のみんなは暮らしているんだよということになるかもしれません。これは場合によっては、町の豊かさ、質というより豊かさというふうに言ってもいいかもしれません。違う意味でこの町は豊かだといえるかもしれないなと思っております。

ですので、今日は私のお話を終わりにして、よりによって宿題を出して逃げていくと。なかなか先生として最悪かもしれませんけれども、書いていただきたいと思います。いっぱい書く必要はありません。いっぱい書く必要はないんですけどそれぞれ書いて次回持ってきてください。次回は宿題をみんなでお話をするというところから続けていきたいと思いますので、私の話は以上で終わりにしたいと思います。ありがとうございました。